

尿失禁

	原因疾患	病態
腹圧性尿失禁	咳、くしゃみ、大笑い等	中年以降の女性に多い。
溢流性尿失禁	骨盤内手術（子宮癌、直腸癌の根治手術） 前立腺肥大症	尿がわずかずつあふれて出てくる状態 神経因性膀胱：脳・脊髄の中枢神経、あるいは脊髄から膀胱に至るまでの末梢神経の様々な病気により、膀胱や尿道の働きが障害
切迫性尿失禁	知覚性切迫性尿失禁：膀胱炎、膀胱結石、前立腺炎、尿道炎など 運動性切迫性尿失禁：多発性脳梗塞、脳出血、変形性脊椎症など	強い尿意が突然起こり、かつ急に起こるためトイレに間に合わずこらえきれずに尿失禁 過活動膀胱（膀胱が過敏な状態）
反射性尿失禁	仙髄排尿中枢より上位の中枢に障害 脊髄損傷、二分脊髄、脊髄腫瘍など	無抑制膀胱収縮に伴って起こる尿失禁（一定量は蓄尿できるが、膀胱が時々身勝手に収縮する。排尿までには至らない）

1. 前立腺肥大症

加齢とともに前立腺の内腺が肥大化し、内部を通る尿道を閉塞してしまう疾患

肥大の原因：男性ホルモン（テストステロンから生成されるジヒドロテストステロンが重要な役割）

【好発】

高齢男性

【症状】

残尿感、頻尿（昼間、夜間）、尿意切迫感、尿勢低下、尿線途絶、排尿遅延（排尿準備ができてなかなか排出しない）、腹圧排尿、排尿後尿滴下など

【検査】

① 直腸指診：前立腺の触診（表面の平滑・弾性軟・周囲組織との境界明）

② PSA：基準値以内、軽度上昇

③ 尿検査：尿流動態検査（尿流率低下、残尿量増加）

尿路感染症の確認

【進行】

① 尿路感染症（残尿により感染症を起こしやすくなる）

② 水腎症による腎機能障害

尿路に通過障害が起きて腎盂腎杯が拡張した病態

2. 尿路結石

尿成分の一部が析出・結晶化し、尿路内（腎臓・尿管・膀胱・尿道）で形成された石様の構造物を尿路結石という

【病態】

1) 部位別尿路結石

① 上部尿結石

i) 腎結石、尿管結石

② 下部尿結石

i) 膀胱結石、尿路結石

【尿検査】

① 潜血反応陽性（顕微鏡的血尿）

【腹部超音波検査】

① 石の位置や大きさを知ることができる

② 尿管の結石は発見しにくい

3) X線検査

造影剤を使って腎臓や尿管をレントゲン撮影

【結石の種類】

① 尿酸結石

② シスチン結石

③ リン酸結石

④ シュウ酸結石（80%）

【症状】 血尿・排尿痛・排尿障害（尿閉）、腰痛

【治療】

① 疼痛対策：非ステロイド性抗炎症薬

② 結石に対する治療

保存療法：飲水、運動による自然排石促進

薬物療法：クエン酸製剤

経尿道的膀胱粉砕術

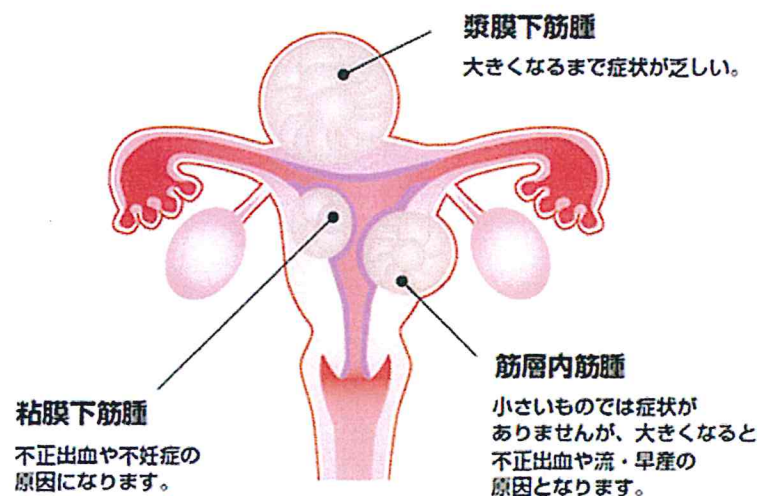
婦人科疾患

1. 子宮筋腫

子宮筋層を構成する平滑筋より発生
発生・増大にエストロゲンが関与
子宮体部に発生（約 90%）、多発することが多い
悪性化することは非常にまれ（約 0.5%以下）
好発：30 歳以上（30～40 歳代）

【子宮筋腫の種類】

粘膜下筋腫
筋層内筋腫
漿膜化筋腫



【症状】

鉄欠乏性貧血
過多月経
不正性器出血
月経困難
不妊
頻尿、腰痛、下腹部痛など

2. 子宮頸癌

- (1) 子宮の入口(子宮頸部)にできる癌
- (2) 婦人科領域で最も多い癌
- (3) 若年者に増加傾向
- (4) 発癌にはウイルス (HPV: ヒトパピローマウイルス: ヒト乳頭腫ウイルス) の関与 (HPV16、18 型)
- (5) 扁平上皮癌
腺癌
腺扁平上皮癌 (混合型)

【症状】

- (1) 初期の自覚症状はない
- (2) 癌の進行に伴い自覚症状が出現
 - ①不正性器出血
 - ②おりものの異常
 - ③性交時の出血（接触出血）
 - ④その他：下腹部痛、腰痛、頻尿、血尿、血便など

【検査】

- ①内視鏡検査：コルポスコプ（異常な移行帯所見）
- ②頸部細胞診
- ③画像検査：腹部超音波・MRI・CT 像：病変の広がり
- ④腫瘍マーカー：SCC、CA72-4

【転移】

- ①子宮周囲の腔壁や直腸、膀胱、リンパ節など
- ②遠隔転移：肺、脳、骨など

【治療】

手術療法、放射線療法、化学療法

3. 子宮体癌（子宮内膜癌）

- (1) 子宮内膜に発生した癌（上皮性悪性腫瘍：発生部位から子宮体癌）
- (2) 子宮癌全体の 5%であったが、近年増加傾向にあり 50%といわれている
- (3) 好発年齢 50 歳代（40～60 歳代）
- (4) 肥満、未経産、不妊、妊娠年齢が高い（エストロゲン依存性）
- (5) 腺癌（95%以上）
 - 扁平上皮癌
 - 混合型
 - 未分化癌

2. 発生機序による分類

- (1) I 型：エストロゲン依存症⇒子宮内膜異型増殖症⇒子宮内膜癌（子宮体癌）
- (2) II 型：その他が原因（子宮内膜の増殖を介さないで発症）

【症状】

不正性器出血

異常帯下

下腹部痛

【検査】

(1) 内膜細胞診と内膜組織診

- ①内膜細胞診（体癌検出率 80～95%）
- ②内膜組織診（細胞診が陰性でも子宮体癌を疑う所見、細胞診の偽陽性・陽性）

(2) 子宮鏡検査（ヒステコスコピー）

経頸管的に子宮腔内に内視鏡を挿入して子宮腔や頸管内を観察

(3) 画像検査（MRI 検査、CT 検査、超音波検査）

【治療】

手術療法、放射線療法、化学療法

4. 乳癌

乳腺から発生する癌（脂肪からは発生しない）

約 90%は乳管から発生：乳癌

約 5～10%は小葉から発生：小葉癌

【好発】40～60 歳代閉経期前後の女性に多い

【危険因子】

- ① 遺伝因子：家系内に乳癌患者
- ② エストロゲンが多い：肥満
- ③ エストロゲンにさらされる期間が長い：
初経が早い、初産が 30 歳以上、未産婦、閉経年齢が 50 歳以上

【症状】

腫瘤を触れる、乳頭分泌や湿疹様びらん

【診断】

乳房の視診

- 1) 乳頭陥凹、えくぼ徴候
- 2) 乳頭分泌（血性）
- 3) 乳頭・乳輪の湿疹様びらん

【触診】

乳房の腫瘤（硬結）

乳頭を中心に乳房を 5 部位に分ける

- 1) 外側上部（腋窩部）発生率 50%
- 2) 内側上部 10%
- 3) 外側下部 10%
- 4) 乳輪下部 5%
- 5) 内側下部 5%

【検査】

マンモグラフィ

- 1) 濃淡不均一な陰影
- 2) 石灰化像
- 3) センチネルリンパ節生検

【治療】乳房温存療法、乳房切除術、ホルモン療法、化学療法、放射線療法

【転移】肺転移＞骨転移＞皮膚・胸壁＞肝臓＞脳

5. 更年期障害

卵巣機能低下に伴うエストロゲン減少と自律神経失調症を中心として不定愁訴を主とする症候群

【好発】閉経期前後の女性

【症状】

月経異常、顔のほてり、発汗、心悸亢進

倦怠感、抑うつ感、イライラ、不眠

【検査】

FSH：卵巣刺激ホルモン増加

LN：黄体形成ホルモン増加

エストロゲン減少

腎疾患

1. 急性糸球体腎炎

【症状】

血尿、蛋白尿、高血圧、浮腫、乏尿

【血液検査】

①軽度上昇：BUN（尿素窒素）、クレアチニン

②高値：ASO（抗streptolysin O：溶連菌感染）

③低下：糸球体濾過率、補体価

【治療】

①入院、安静、保温

②食事療法 乏尿期：飲水制限（前日尿量+500ml）

塩分制限（3g/日以下）

たんぱく質制限（25g/日以下）

尿量増加で浮腫改善：水分制限なく、塩分制限緩和

2. 慢性糸球体腎炎

血尿および蛋白尿が通常1年以上わたって続く原発性糸球体疾患

【疫学】学校検診で発見される IgA 腎症（成人 30～40%、小児 20%以上を占める）

【症状】①潜在期：蛋白尿、血尿

②進行期：蛋白尿、血尿、高血圧、（腎障害が加わると腎不全）

【検査】

1) 尿検査：蛋白尿、血尿

2) 腎機能検査

①高値：BUN、クレアチニン

②低値：クレアチニンクリアランス

3) IgA 腎症：血清 IgA 高値、補体価低値

【治療】

進行期：食事制限（蛋白質 0.6g/Kg/日、塩分制限 7g/日以下）と生活規則

高エネルギー（35Kcal/Kg/日）

3. ネフローゼ症候群

大量の蛋白尿、低タンパク血症（血清総タンパク質 6.0g/dl 以下、アルブミン 3.0g/dl 以下）

血清コレステロール高値、浮腫を来す疾患

【疾患】原発性糸球体疾患、巣状糸球体硬化症、膜性腎症、増殖性糸球体腎炎など

二次性：糖尿病性腎症、アミロイドーシス、ループス腎炎、ホジキン病、うっ血性心不全など

（アミロイドーシスとは、アミロイドと呼ばれる異常蛋白質が脳、心臓、腎臓、消化管、神経など全身の様々な臓器に沈着し、機能障害を起こす病気の総称）

【症状】浮腫、乏尿、全身倦怠、食欲不振

【検査】蛋白尿

血液検査：血清蛋白低値、総コレステロール高値

腎機能検査：クレアチニンクリアランス低値（腎臓が身体の老廃物を排泄する能力

泌尿器疾患

過去問題

	出題	内容
第 1 回	前立腺肥大	症状、検査、治療
第 4 回	排尿異常	膀胱炎、尿路結石、神経因性膀胱、前立腺肥大
第 24 回	前立腺肥大症	所見、症状
第 27 回	前立腺肥大症	症状、検査（直腸指診）、前立腺癌の転移
第 28 回	尿路結石	再発予防、治療

第 1 回

問題 71 前立腺肥大で誤っているのはどれか。

1. 直腸内指診では正常の硬さである。
2. 残尿感は飲酒によって強くなる。
3. 老人に多い。
4. 性腺摘出術を行う。

第 4 回 問題 75 排尿異常で適切でない記述はどれか。

1. 膀胱炎では頻尿になりやすい。
2. 尿管結石では多尿になりやすい。
3. 神経因性膀胱では切迫性尿失禁になりやすい。
4. 前立腺肥大では尿閉になりやすい。

第 24 回

問題 60 前立腺肥大症について正しいのはどれか。

1. 若年者に多い。
2. 夜間頻尿がみられる。
3. 蛋白尿がみられる。
4. 下腹痛を伴うことが多い。

第 27 回

問題 62 前立腺肥大症について正しいのはどれか。

1. 蛋白尿がみられる。
2. 夜間頻尿がみられる。
3. 直腸指診では石のように硬く触れる。
4. 骨転移がみられる。

第 28 回

問題 60 尿路結石の再発予防に有用なのはどれか。

1. 水分摂取
2. 尿酸排泄促進薬内服
3. 柑橘類摂取
4. ホウレンソウ摂取

婦人科疾患

過去問題

	出題	内容
第 1 回	子宮筋腫	症状
第 6 回	子宮筋腫	病態
第 8 回	子宮筋腫	筋腫の原因
第 9 回	子宮癌	診断
第 10 回	更年期障害	症状
第 11 回	月経	月経発現に関係する
第 11 回	子宮筋腫	原因、症状、好発の組合せ
第 14 回	子宮頸癌	子宮頸癌の原因
第 19 回	子宮筋腫	症状
第 24 回	月経異常	月経異常の原因疾患

第1回

問題 69 子宮筋腫でみられないのはどれか。

1. 貧血
2. 皮膚色素沈着
3. 排尿困難
4. 不妊

第6回

問題 4 子宮筋腫について誤っている記述はどれか。

1. 50歳以後に好発する
2. 悪性に変化することは少ない
3. 子宮体部に好発する
4. 粘膜下筋腫では過多月経を伴う

第8回

問題 69 子宮筋腫について正しいのはどれか。

1. 20歳代に好発する
2. 子宮頸部に好発する
3. 不妊症の原因となる
4. 過少月経となる

第11回

問題 71 子宮筋腫について誤っている組合せはどれか。

1. 好発部位 ——— 子宮頸部
2. 好発年齢 ——— 30～40歳代
3. 病理組織 ——— 平滑筋腫
4. 症状 ——— 月経過多

第19回

問題 76 疾患とその特徴で正しい組合せはどれか。

1. 子宮筋腫 ——— 過多月経
2. 子宮体癌 ——— ヒトパピローマウイルス
3. 子宮頸癌 ——— 卵胞ホルモン服用者
4. 卵巣嚢腫 ——— 月経困難症

第9回

1. 問題 58 子宮癌で正しい記述はどれか。

2. 頸癌よりも体癌が多い。
3. 初発症状は腰痛が多い。
4. 組織診断が重要である。
5. ホルモン療法が第一選択である。

第14回

問題 84 子宮頸癌の原因と考えられているのはどれか。

1. ヒト乳頭腫ウイルス
2. 単純ヘルペスウイルス
3. 帯状ヘルペスウイルス
4. 風疹ウイルス

第10回

問題 58 更年期障害の症状でないのはどれか。

1. 頭痛
2. 動悸
3. 咳漱
4. 不眠

第11回

問題 2 月経の発現に関係しないのはどれか。

1. 脳下垂体
2. 卵巣
3. 卵管
4. 子宮内膜

第24回

問題 58 月経異常の原因とならないのはどれか。

1. ネフローゼ症候群
2. クッシング症候群
3. 子宮筋腫
4. 神経性食思不振症